

1. それから、主はモーセとアロンに告げて仰せられた。
2. 「イスラエル人に告げて言え。
地上のすべての動物のうちで、あなたがたが食べてもよい生き物は次のとおりである。
3. 動物のうちで、ひづめが分かれ、そのひづめが完全に割れているもの、また、反芻するものはすべて、食べてもよい。
4. しかし、反芻するもの、あるいはひづめが分かれているもののうちでも、次のものは、食べてはならない。
すなわち、らくだ。
これは反芻するが、そのひづめが分かれていないので、あなたがたには汚れたものである。
5. それから、岩だぬき。
これも反芻するが、そのひづめが分かれていないので、あなたがたには汚れたものである。
6. また、野うさぎ。
これも反芻するが、そのひづめが分かれていないので、あなたがたには汚れたものである。
7. それに、豚。
これは、ひづめが分かれており、ひづめが完全に割れたものであるが、反芻しないので、あなたがたには汚れたものである。
8. あなたがたは、それらの肉を食べてはならない。
またそれらの死体に触れてもいけない。
それらは、あなたがたには汚れたものである。
9. 水の中にいるすべてのもののうちで、次のものをあなたがたは食べてもよい。
すなわち、海でも川でも、水の中にいるもので、ひれとうろこを持つものはすべて、食べてもよい。
10. しかし、海でも川でも、すべて水に群生するもの、
またすべて水の中にいる生き物のうち、ひれやうろこのないものはすべて、あなたがたには忌むべきものである。
11. これらはさらにあなたがたには忌むべきものとなるから、それらの肉を少しでも食べてはならない。
またそれらの死体を忌むべきものとしなければならない。
12. 水の中にいるもので、ひれやうろこのないものはすべて、あなたがたには忌むべきものである。
13. また、鳥のうちで次のものを忌むべきものとしなければならない。
これらは忌むべきもので、食べてはならない。
すなわち、はげわし、はげたか、黒はげたか、
14. とび、はやぶさの類、
15. 鳥の類全部、
16. だちょう、よたか、かもめ、たかの類、
17. ふくろう、う、みみずく、
18. 白ふくろう、ペリカン、野がん、
19. こうのとりの類、さぎの類、やつがしら、こうもりなどである。
20. 羽があって群生し四つ足で歩き回るものは、あなたがたには忌むべきものである。
21. しかし羽があって群生し四つ足で歩き回るものの中で、
その足のほかにはね足を持ち、それで地上を跳びはねるものは、食べてもよい。
22. それらのうち、あなたがたが食べてもよいものは次のとおりである。
いなごの類、毛のないいなごの類、こおろぎの類、ばったの類である。

23. このほかの、羽があって群生し四つ足のあるものはみな、あなたがたには忌むべきものである。
24. 次のことによっても、あなたがたは汚れたものとなる。
すなわち、これらのものの死体に触れる者はみな、夕方まで汚れる。
25. また、これらのどの死体を運ぶ者もみな、その衣服を洗わなければならない。
その人は夕方まで汚れる。
26. ひづめが分かれてはいるが
それが完全に割れていないか、あるいは反芻しない動物、これらすべてはあなたがたには、汚れたものである。
これらに触れる者はみな汚れる。
27. また、四つ足で歩き回るすべての生き物のうちで、
足の裏のふくらみで歩くものはみな、あなたがたには、汚れたものである。
その死体に触れる者はみな、夕方まで汚れる。
28. これらの死体を運ぶ者は、その衣服を洗わなければならない。
その人は夕方まで汚れる。これらは、あなたがたには、汚れたものである。
29. 地に群生するもののうち、次のものはあなたがたにとって汚れている。
すなわち、もぐら、とびねずみ、大とかげの類、
30. やもり、わに、とかげ、すなとかげ、カメレオンである。
31. すべて群生するものの中で、これらはあなたがたには、汚れたものである。
これらのものが死んだとき、それに触れる者はみな、夕方まで汚れる。
32. また、それらのうちのあるものが死んだとき、何かの上に落ちたなら、それがどんなものでも、みな汚れる。
木の器、あるいは衣服、あるいは皮、あるいは袋など、
仕事のために作られた器はみな、水の中に入れなければならない。
それは夕方まで汚れているが、そうして後きよくなる。
33. また、それらのうちの一つが、どのような土の器の中に落ちてても、その中にあるものはすべて汚れる。
その器は砕かなければならない。
34. また食べる物で、それにそのような水がかかっていたら、それはみな汚れる。
また飲む物で、このような器の中にあるものはみな汚れる。
35. さらに、どんなものでも、その上にこれらの死体の一つが落ちたものは汚れる。
それがかまどであれ、炉であれ、それを粉々に割らなければならない。
それは汚れており、あなたがたには汚れたものとなる。
36. しかし、泉、あるいは水のたまっている水ためはきよい。
ただし、それらの死体に触れるものは汚れる。
37. また、もしそれらのどの死体が、蒔こうとしている種の上に落ちてても、それはきよい。
38. しかし、種の上に水がかけてられていて、
その上に、それらの死体のあるものが落ちたときは、それはあなたがたには汚れたものである。
39. あなたがたが食用として飼っている動物の一つが死んだとき、その死体に触れる者は夕方まで汚れる。
40. その死体のいくらかでも食べる者は、その衣服を洗わなければならない。
その人は夕方まで汚れる。
また、その死体を運ぶ者も、その衣服を洗わなければならない。

その人は夕方まで汚れる。

- 4 1 . また、地に群生するものはみな忌むべきもので、食べてはならない。
- 4 2 . 地に群生するもののうち、
腹ではうもの、また四つ足で歩くもの、
あるいは多くの足のあるもの、これらのどれもあなたがたは食べてはならない。
それらは忌むべきものである。
- 4 3 . あなたがたは群生するどんなものによっても、自分自身を忌むべきものとしてはならない。
またそれによって、身を汚し、それによって汚れたものとなつてはならない。
- 4 4 . わたしはあなたがたの神、主であるからだ。
あなたがたは自分の身を聖別し、聖なる者となりなさい。
わたしが聖であるから。
地をはういかなる群生するものによっても、自分自身を汚してはならない。
- 4 5 . わたしは、あなたがたの神となるために、あなたがたをエジプトの地から導き出した主であるから。
あなたがたは聖なる者となりなさい。
わたしが聖であるから。」
- 4 6 . 以上が動物と鳥、また水の中をうごめくすべての生き物と、地に群生するすべての生き物についてのおしえであり、
- 4 7 . それで、汚れたものときよいもの、食べてよい生き物と食べてはならない生き物とが区別される。

説教

神さまは私たちと共におられます。

でも、それには二つの意味を同時に理解しなければなりません。

ひとつは、神さまに罪赦されて受け入れられた喜びの中にあるということです。

そして、もうひとつは、神さまが、ご自身の鉄のムチをもって、私たちにご自身の御心を教えてくださるということです。

つまり、神さまは私たちを限りない憐れみによって受け入れ祝福してくださるのですが、

同時に、私たちに歩むべき道を教えてくださるのです。

そして、それこそが神が私たちと共におられるということの意味です。

9 章ではいけにえを捧げて神と人との和解を実現して神の栄光をあらわした大祭司アロンとその子らでしたが、

10 章では自分の責任を果たさず神のさばきを受けて正反対の意味で神の栄光をあらわしました。

祭司もイスラエルも、神さまの恵みを受けたら、

ナダブとアピフのように傲慢になって勝手に生きるのではなく、

いよいよ神さまを畏れてみこころを行わなければなりません。

それで、神さまは、

イスラエルが神さまに喜ばれる生き方をするようにと、

11 章以降で、実に具体的にこまごまと生活のあり方を指示なさるのでした。

11 章ではおもに食べ物について指示されます。

これによると、

食べてよい動物は、

「ひづめが分かれ、そのひづめが完全に割れて」いて「反芻するもの（草食動物）」です(3)。

食べてよい魚類は、

「ひれとうろこを持つもの」です(9)。

昆虫では、

イナゴやバッタのように

「羽があって群生し四つ足で歩き回り、

その足の他にはね足を持ち、それで地上を飛び跳ねるもの」は食べてよいものでした(21,22)。

反対に、食べてはならない動物もありました。

「反芻するが、そのひづめが分かれていない」らくだや岩だぬき、野うさぎ、

「ひづめが分かれているが反芻しない」豚は食べてはなりません(4-7)。

ひづめのない、「足の裏のふくらみで歩くもの」、

例えば、犬や猫なども「汚れたもの」として食べてはなりません(27)。

魚類では、

「ひれ、うろこのないもの」は「忌むべきもの（『汚れたもの』より強い表現）」と呼ばれます(10)。

例えば、かに、えび、うなぎ、ほたて、かき、あわびなどが該当するでしょう。

鳥の中では、

鷲、鷹、ふくろうといった肉食の猛禽類がやはり「忌むべきもの」と禁じられます。

昆虫では、

イナゴやバッタ以外、例えばとんぼや蝶、蝉、蜂などは禁じられます(21-23)。

「もぐら、とびねずみ、大とかげの類、

やもり、わに、とかげ、すなとかげ、カメレオン」も汚れたものとして食用を禁じられます(29,30)。

以上の食品規定を忠実に守ると、今日、随分と多くのおいしい物が食べられないことになります。

いったいどうしてこのようなことが規定されているのでしょうか。

それは、要するに、食品衛生上の観点からです。

それを食べて疫病になったり感染症になる恐れのある動物は極力避けるということでしょう。

そのような極めて実用的な観点から、こうした食品規定がなされていると思われます。

不潔なものを食べる習慣のある動物の場合、

例えば腸チフスで汚染された水を飲んだ肉を不十分な調理で食べると腸チフスにかかります。

寄生虫病にかかった動物の肉を食べると、それが人間にも感染します。

牛からは天然痘、

豚からは寄生旋毛虫、

七面鳥からはジフテリア、

馬からは鼻疽症が感染します。

最近では、鳥インフルエンザやかきのノロウイルスなどが印象的です。

中には、鼻疽菌のように実際に化学兵器として応用されたものもあります。

このような恐ろしい危険性のあるものをわざわざ食用とする、ということを律法は禁じているのです。

その理由で、食肉獣や猛禽類が禁じられます。

そして、同じ理由で、動物の死体に触れることが一切禁じられます。

8節、11節、24、27-28節には、汚れた動物、魚類、鳥、昆虫、犬、猫の死体に触れたら汚れると言われ、は虫類、鼠、もぐらに至っては、その死体が触れた物まですべて汚れると言われ(31-38)、

39-43節では、きよいとされる生き物が死んだ場合にもその死体に触れてはならないと言います。

これらはすべて何某かの病原菌が感染する恐れがあるためです。

だから、死体に触れることが禁じられました。

実際、この食品律法を守ってきたユダヤ人は長生きしたと言われます。

昔ヨーロッパが疫病にやられても、ユダヤ人は伝染を免れたと言われます。

近年イタリアでこれらが流行した時にもユダヤ人たちは死ぬほどの病気には誰もかからなかったと言われます。

ある研究では次のように言われました。

「プロシアではユダヤ人の寿命は一般人より五年は長い。

フルトではユダヤ人の平均寿命は37歳で、キリスト教徒は26歳である。

ハンガリーでは...平均寿命がクロアチア人では22,2歳、ドイツ人は26,7歳だが、ユダヤ人は46,5歳である。

しかもユダヤ人は、

概して貧乏であり、異邦の隣人たちよりずっと好ましからぬ非衛生的条件下で生活しているのである。」

神さまはこう命令する理由を次のように言われます。

44. わたしはあなたがたの神、主であるからだ。
あなたがたは自分の身を聖別し、聖なる者となりなさい。
わたしが聖であるから。
地をはういかなる群生するものによっても、自分自身を汚してはならない。
45. わたしは、あなたがたの神となるために、あなたがたをエジプトの地から導き出した主であるから。
あなたがたは聖なる者となりなさい。
わたしが聖であるから。」

つまり、
神さまが、
汚れたエジプトの奴隷状態からイスラエルを救い出して
聖なる神さまのものとなさったのであるから、だから「聖なる者となりなさい」と言われるのです。
以前幕屋の話の中で学びましたが、
「聖」とは神さまの側に属し、いのちに直結します。
反対に「罪、汚れ」のうちには神さまはおられず、それは死に直結します。

それで、いのちへと召されたイスラエルは、
わざわざ自ら死を招くような生き方を選択することなく、いのちある歩みをしなければなりません。
それは道徳や儀式といった霊的な生き方に関しても言えることですし、同時に肉体的な健康に関しても言えることです。
なぜなら、私たちの肉体は私たちの精神や霊を宿す「聖霊の宮」(コリント 6:19)だからです。

「あなたがたのからだは、
あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、
あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。
あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。
ですから自分のからだをもって、神の栄光を現わしなさい。」 コリント 6:19-20

このからだは、神さまが私たちに与えてくださった大切な「聖霊の宮」です。
このからだを通して、神さまはご自身の栄光をあらわされます。
私たちは、このからだを通して、神のわざをなすのです。

使徒パウロは言いました。

「あなたがたの死ぬべきからだを罪の支配にゆだねて、その情欲に従ってはいけません。
また、あなたがたの手足を不義の器として罪にささげてはいけません。
むしろ、死者の中から生かされた者として、あなたがた自身とその手足を義の器として神にささげなさい。」 ロマ 6:12-

13

「そういうわけですから、兄弟たち。
私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。
あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。
それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。」 ロマ 12:1

ですから、
神さまから与えられたこのからだを大切に、
できる限り健康を保持し、
そうして神の栄光をあらわすよう努めなければなりません。

それで、神さまは、荒野を旅するイスラエルに食物律法をお与えになりました。

ただ、この食物律法は
当時のパレスチナを旅するイスラエルに与えられたものなので、
必ずしも今日私たちの生活に適用できるものではありません。

ですから、今日、かきも、ウナギも、かにも、えびも食べていいと思います。
あるいは、モーセも予想しなかった、もっと別の食べ物を
食べてはならない食物に数えなければならないかもしれません

しかし、いずれにせよ、
私たちは、より私たちの健康を維持することのできる食べ物をより進んで選び取って食べるべきだと思います。
危ない食べ物や飲み物はなるべく避けるべきです。
それが、この食物律法の精神であろうと思います。

「あなたがたは、飲むにも、食べるにも、何をするにもただ神の栄光のためにしなさい」(コリント 10:31)

ここに集われたみなさんひとりひとりが

「飲むにも、食べるにも、何をするにもただ神の栄光のために」なしていかれるよう、主の御名により祈ります。